

多摩川遡上の旅第四弾

多摩大橋から柳淵橋まで約 18 キロを歩く

作成者 根岸 雅明

メンバー 西山孝、小倉幹子、根岸雅明

2021 年 5 月 1 日

2021.5.02

多摩川遡上の旅 138 キロの第四弾

多摩大橋から柳淵橋まで歩く 約 18 キロ

【概要】2019 年から始めた多摩川の河口から源流の笠取山まで歩く計画のうち、今回は第四弾の遡上です。

青梅線中神駅 8 時 10 分頃に仲間と集合して、駅前のマックでコーヒブレイク。これからの行程を打ち合わせしてスタート。

前回の東京側の左岸の堤防を多摩大橋から青梅の柳淵橋まで約 18 キロ(実際の歩行距離は 23.6 キロ。ガーミンデータより。)を歩く。前回記載した通り多摩川の川幅は多摩大橋で約 450m ほどです。この首都圏でのこの多摩川の大きな空間にはいつもながらたくさんの風が流れ、自然がいっぱいでとても気持ちがいい。

上流に見えるランドマーク(目印)の奥多摩の大岳山を眺め、多摩川を横断するいくつもの道路橋、五日市線や八高線の鉄道橋をくぐり、河川敷では多くの家族ずれの姿が見られた。

多摩川の蛇行に従い堤防を歩いていくと遠くの景色がどんどん変化していくのがわかる。正面に向かって見えた大岳山の山塊がいつの間にか左手に見えるようになる。これは川が右手方向に曲がっていることを示すものだ。こんな変化を楽しみながら歩く。

草花の観察、鳥の声。ウグイスも鳴いている。やかましい鳴き声のガビチョウ(外来種で大音量のさえずりや農作物の食害により害鳥となったとの事。ネット調べ)も聴かれた。

西山さんの詳しい蝶もたくさん見られた。5 から 6 種類ぐらいのチョウの名前や性別を西山さんは次から次へと判別していた。驚きです。どうも中学 1 年生くらいの時に図鑑で調べながら蝶に熱中したらしい。若い時の興味や知識は年齢を経てもまったく衰えないものだなと感心しました。

仲間と歩くと自分だけの知識や感じ方以外のものが得られるので感性が豊かになる気がしてとても面白く楽しい。

ランチタイムは玉川上水の取り入れ口の公園でとりました。風は多少強かったが、東屋の中でしたので、風がよけられコンロで湯を沸かし、味噌汁とコーヒーを淹れて持参のお結びをほおばりました。食後には今回も小倉さんからのどら焼きをいただき満腹でした。コーヒーとマッチしてとても美味しくいただきました。いつも差し入れの気遣いに感謝です。ありがとうございました。

青梅の柳縁橋は河口から 61 キロ地点です。全長 138 キロのうち達成率は約 44% ということになります。これから先は険しい渓谷沿いになります。西山さんの話によるとここ青梅は多摩川の扇状地の先端部分、扇の要だそうです。これからは交通量の多い車道歩きがメインになりますが、川沿いではなく奥多摩駅から雲取山への尾根伝い

に笠取山を目指す方法もあるのかなと思いました。みなさんと相談しながら源流への川旅のルートを検討していくのも面白いと思いました。

次回の第5弾はどんな気づきや発見があるか楽しみです。一緒に歩いた仲間。お疲れ様でした。そして大いに楽しみました。

【日付】2021年5月1日(土) 晴れ

【目的】多摩大橋から柳縁橋まで約18キロを歩く。

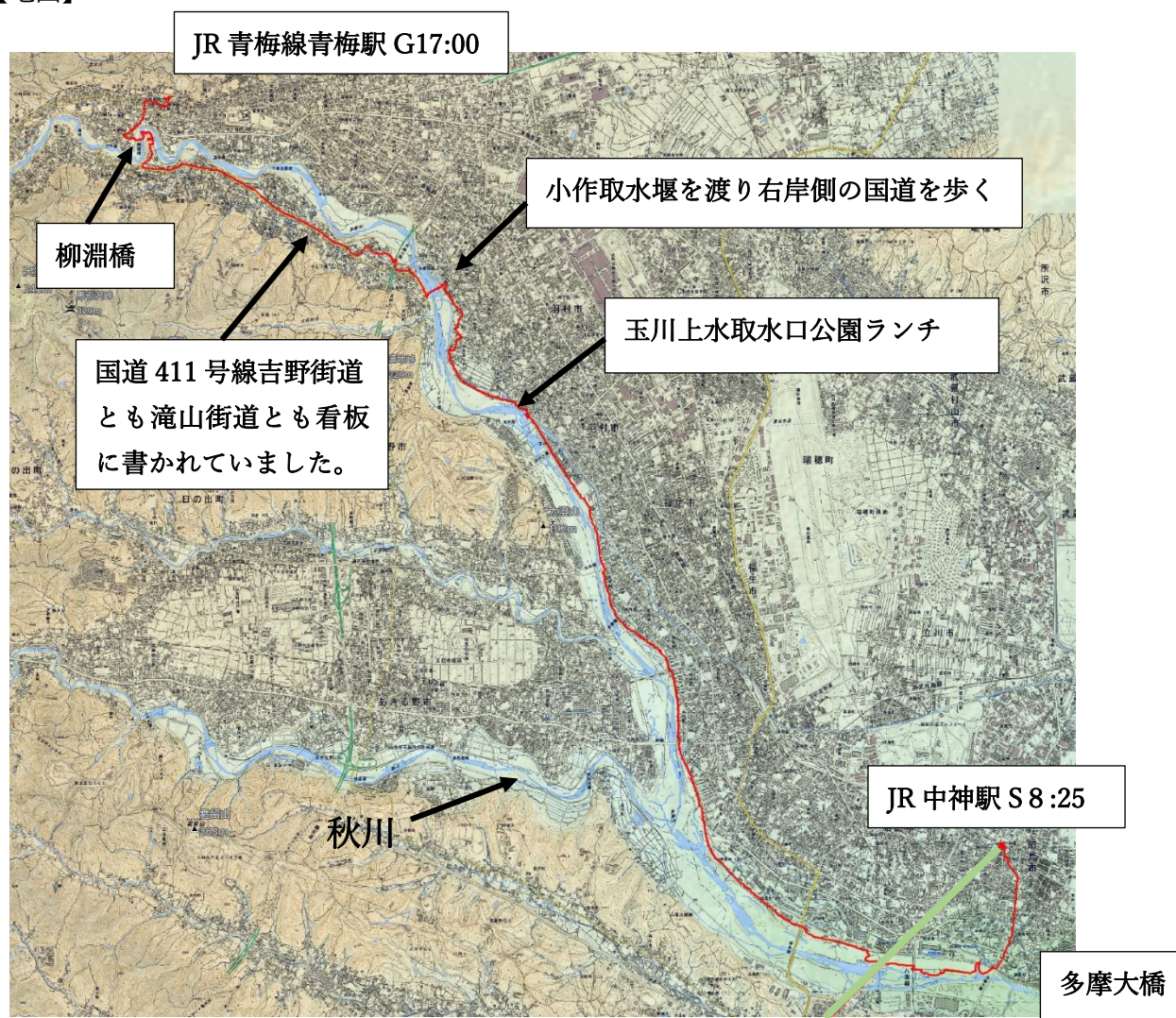
【メンバー】西山孝、小倉幹子、根岸雅明

【費用】交通費(@820+@1100)+コーヒー@250+菓子@682=2,852

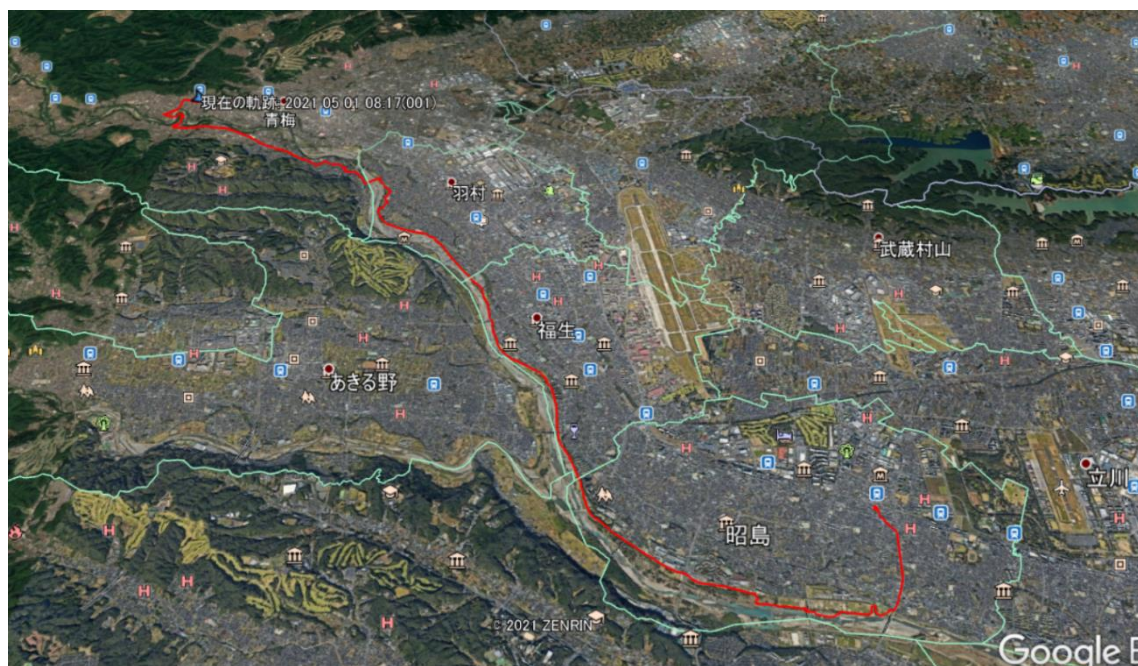
【コース概要】阪東橋 6:15→横浜 6:28→川崎 6:51→7:45 立川 7:50→7:58 中神駅 8:25…多摩大橋 9:00…玉川取水公園…17:00 青梅駅 G
青梅駅 17:09→立川 17:49→武蔵小杉 18:42→18:56 横浜 19:00→19:09 阪東橋

【歩行距離】ガーミンデータ 23.6 キロ。1日の歩数 41,000 歩 (スマホデータ)

【地図】



【グーグルアース】



多摩大橋から柳淵橋まで18キロ。



【写真】



青梅線中神駅で下車して駅前のマックでコーヒープレイク。



和田橋から見た多摩大橋方向。

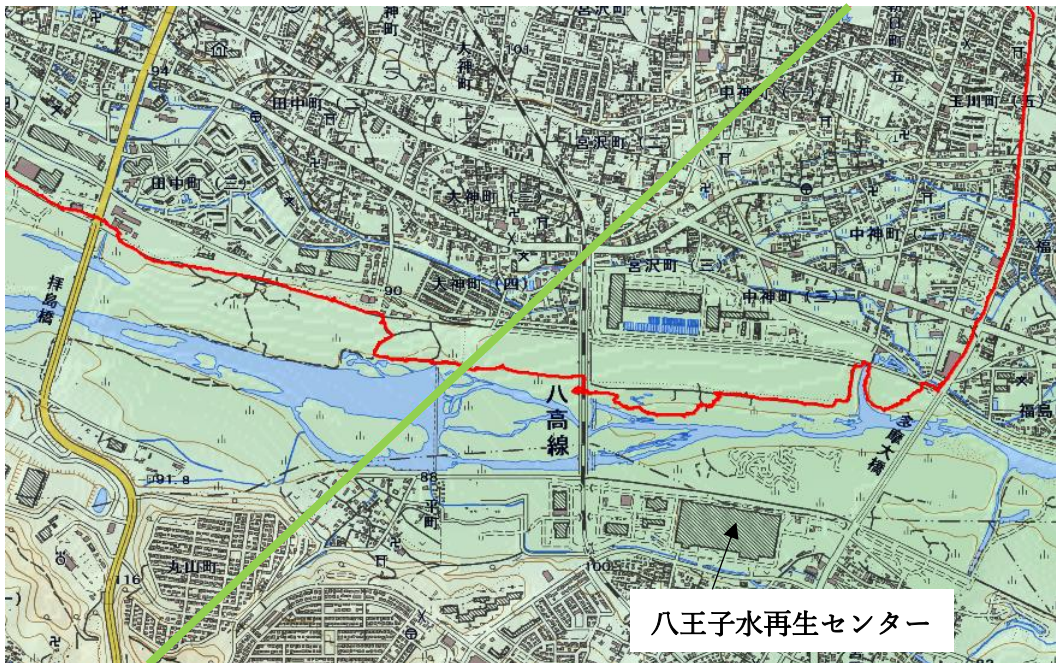


天気も上々。多摩大橋からスタート。奥多摩の大岳山を正面に歩く。





八高線





河川敷で憩う家族



拝島橋を過ぎた付近



多摩川横断橋と送水管（多摩丘陵幹線）

目的は多摩南西部地域の水道の送水能力の強化。平成27年に全線開通したとの事。東京都水道局より。地図にはこの橋はまだ記されていませんでした。

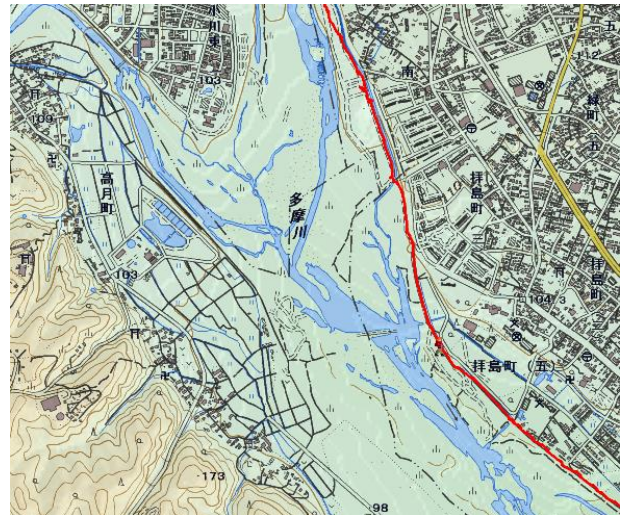
滝山城址



放水路の向こうの丘陵が気になり地図を調べていたら城跡のマークが記されていた。調べたら八王子の滝山城跡と記されていた。山内上杉が築城（1521年頃）して北条氏が滅ぼしてその後、この城を北条氏が改修して支配したという。その後、武田信玄に何度も攻め込まれ落城寸前までいったという。その後、戦略上の点からこの滝山城の南西に八王子城を築き、居城（1583年～1587年頃）を移したという。ネット調べ。この滝山城址を訪れたいと思いました。



昭島用水堰



秋川と多摩川の合流地点付近



昭島用水堰。多摩川から水を取り入れて昭島地区の農業用水として利用された。川崎には宿河原堰がある。西山さんと小泉次太夫の話をしながら歩く。多摩川はいろんな場所で水を利用されてきた歴史がわかる。



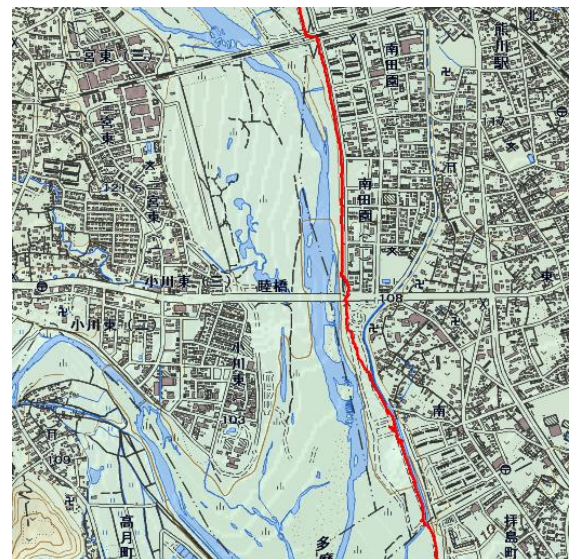
河口から 48 キロ地点



古いかっての用水取り入れ口がありました。河川の変化で使われなくなったものと思われます。貴重な遺跡ですね。



昭島市から福生市に入りました。河川敷を公園として整備されアスレチック遊具などがあり子供たちが遊んでいました。大人用の懸垂平行棒などもあり西山さんが挑戦しました。



睦橋。福生市とあきる野市を結ぶ橋。長さ 122.6m

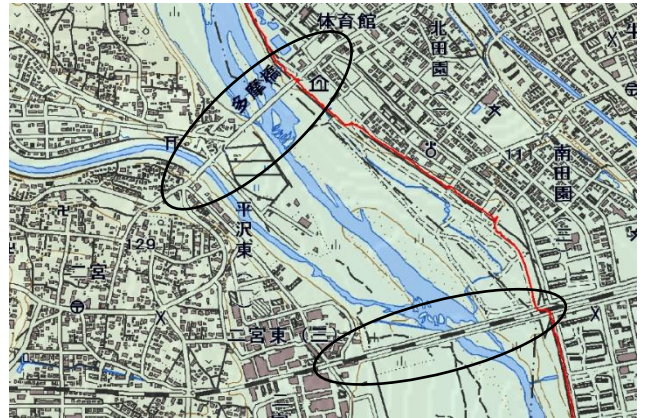
睦橋。河口より 49.4 キロ。



左の奇妙な建物はあきる野市のパチンコ店のデルパラみたいです。ネットで調べてみました。



五日市線の鉄橋の下をくぐる。橋名板には大豊建設の施工と書かれていました。竣工昭和54年8月9日。



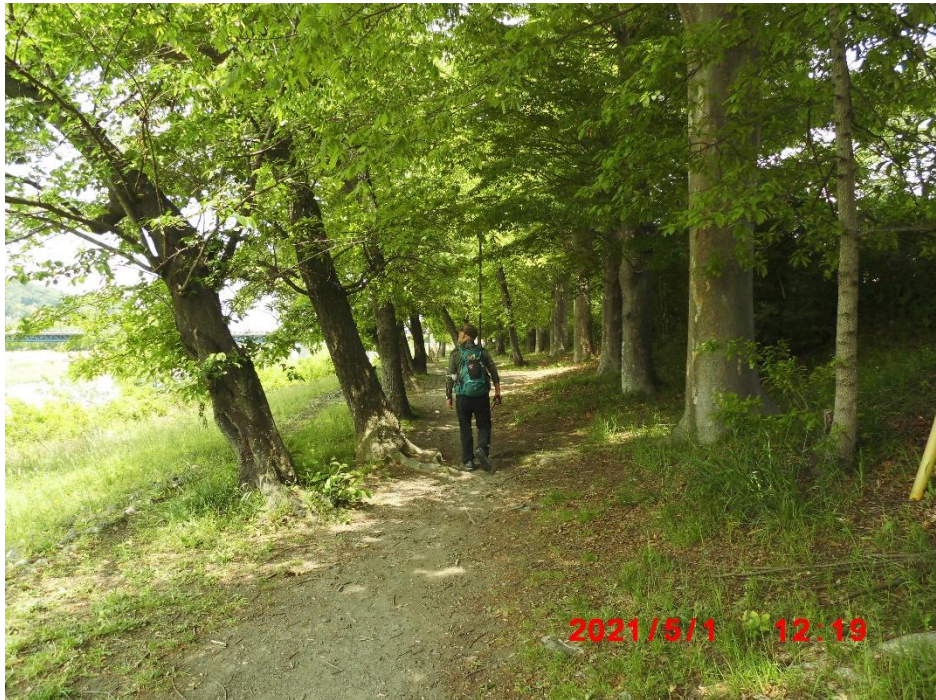
多摩橋と五日市線鉄橋



橋のたもとにあったタワー



多摩橋。福生市とあきる野市。全長251m。1969年竣工。



新緑の堤防を歩く。とても気持ちがいい。



永田橋。全長 241.5m、1973 年竣工。昭和初期には永田の渡しがあったそうです。奥多摩街道と秋川街道を結ぶ道。



永田橋の上流が羽村大橋。玉川上水の入口まであと少し。結構歩いたなあ。



永田橋の下をくぐる。



羽村大橋に向かって歩く。



河口から 52 キロ地点付近。河川敷を歩いたり堤防にあがったりしながら歩く。



羽村大橋が近づいてきた。全長 547m。1974 年竣工。あきる野市と羽村市を結ぶ



羽村大橋を子どもの目線でのぞく西山さん。



羽村堰下橋。全長 267m。1979 年竣工。
人道橋である。



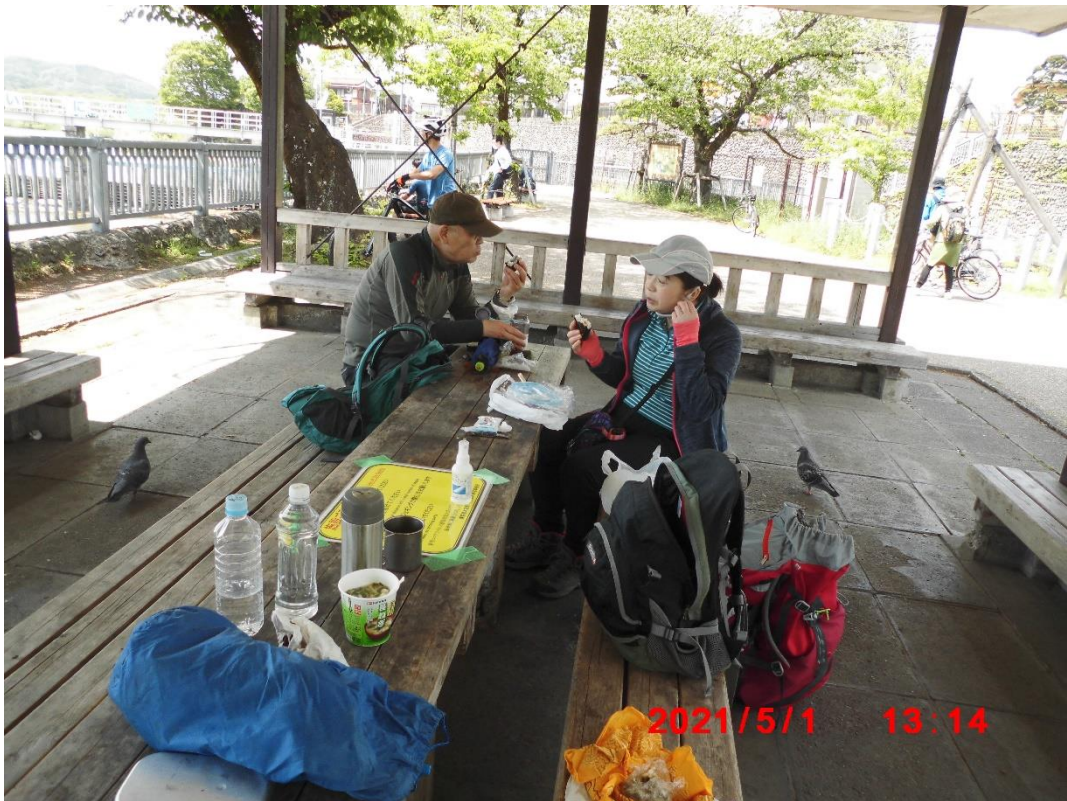
羽村大橋と羽村堰下橋



羽村堰下橋



ようやく玉川兄弟の銅像の玉川上水取水口公園に到着。



あずまやでランチ休憩



玉川上水の取水口 この堰は平成 27 年土木学会遺産に認定されたとの事



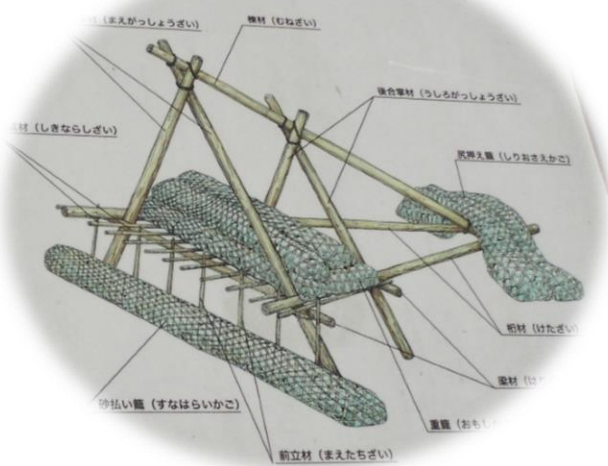
多摩川から取り入れた水は江戸に供給された。江戸の四谷まで 42.7 キロ。高低差が 92.3m との事。1653 年着工から約 7 ヶ月後の 1654 年に完成させたという。
玉川兄弟は幕府からの資金が底をつき家売って追加資金 3,000 両当てて開通させたという。ネット調べ。

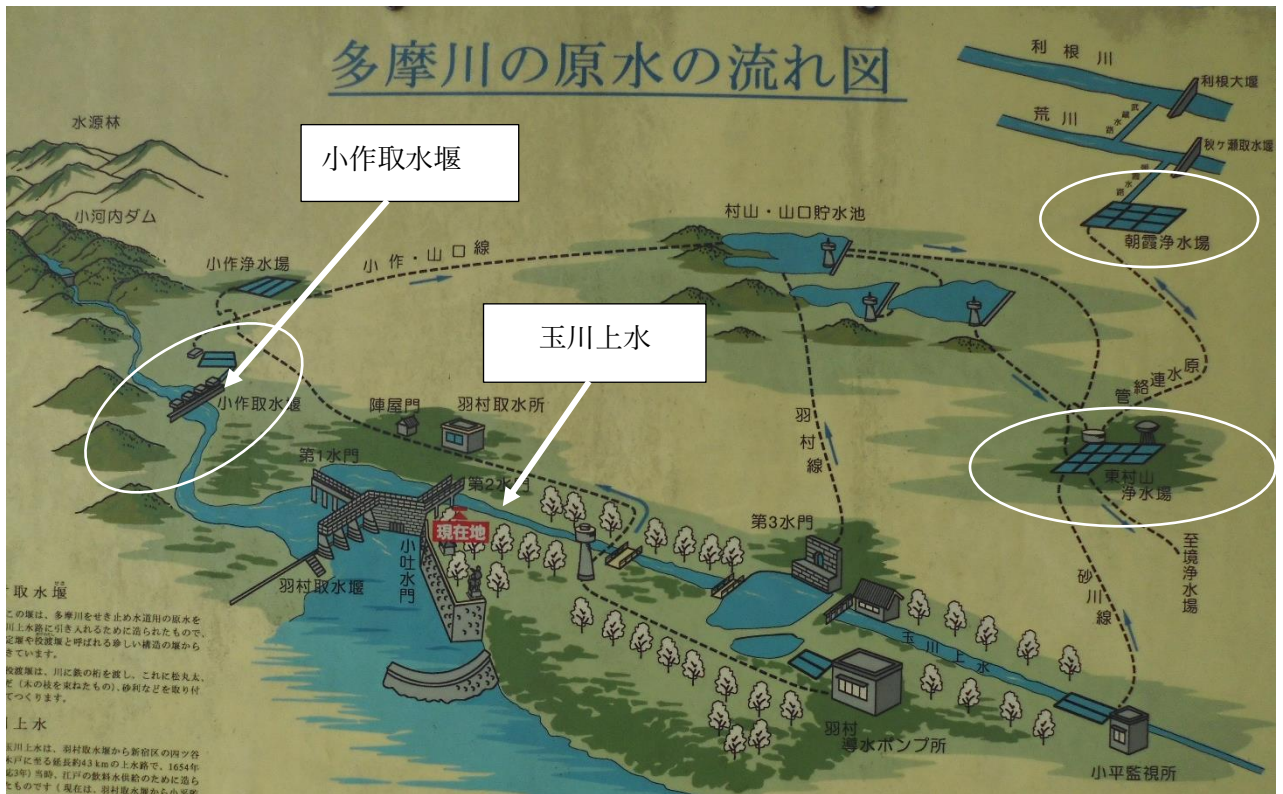


牛粋（川倉水制）

水の勢いを弱めて堤防を守る仕組みだそうです。現代でいうところのテトラポット、蛇籠というところか。形が牛の背中に似ているところから川鞍から川倉に呼ぶようになったという。牛粋は堤防に植えた河畔林を切り出して組み立てる。木材だけでは浮き上がってしまうので石を詰めた蛇籠で固定する。堤防を強化する林が同時に治水の材料を提供する優れた知恵による。と看板に書かれていた。

水の流れを弱める仕組み





多摩川の原水の流れ。奥多摩から流れてきた水が東村山浄水池へと供給される仕組みがわかる。また利根川と荒川の水も朝霞浄水場と東村山浄水場と連携しているのがわかる。



玉川水神社。玉川上水が完成したのを記念して水神宮として建立したとの事。



羽村取水管理事務所



この地を治めていた豪族の一族の墓らしい。市史跡 伝 三田雅楽之助
平将定等の墓。と記されていました。河口から 55 キロ地点。



阿蘇神社

阿蘇神社は全国に 500 ほどあるという。神武天皇の孫で阿蘇を開拓した健甞龍命を祀っているという。なんでこの地に祀ってあるのだろうかと思った。この地を修めていた武将たちから崇敬が厚かったのだろう。由緒には平将門、藤原秀郷、小田原北条氏、武蔵七党のうち三田氏の名前が出てきている。神社のしおりを読んでもよくわからない。



小作取水堰。羽村取水堰の上流 2 キロに設けられた堰で、山口貯水池へ原水を導水するための施設だそうである。鋼製門扉で構成された近代的な取水堰との事。



幅員 4m、長さ 193.1m、昭和 55 年 7 月取水堰

取水口



ゲート



小作取水堰から上流の多摩川橋を望む。



赤い線が歩いたルート。小作取水堰を渡り右岸側の国道411号線を歩く。



国道 411 号線から右折してかんぼの宿を通り釜の淵公園へ



旧宮崎家住宅と白く見える鮎美橋





鮎美橋



柳淵橋。河口から 61 キロ地点。この橋を渡り右手の青梅駅まで行く。



公園の入り口にあった若鮎の碑。

東京大学石川千代松博士が大正2年6月にこの地で琵琶湖産鮎を放流して遡上鮎のように大型鮎になるかどうか実験をして、成功したという。それ以後、全国の河川に琵琶湖産鮎が放流されるようになったという。これを記念してこの地に碑を建てたという。看板より。



無事青梅駅に17時着ゴール。17時9分発の東京行きに乗り帰宅。
いろんな発見と自然観察の川旅でした。次回も西山さん、小倉さんよろしくお願いたします。またブラタモリを楽しみましょう。ありがとうございました。